

守山まるごと活性化プラン検討委員会（第1回全体会議）議事録

日 時：平成25年5月28日（火）19：30～21：10

場 所：吉身会館

出席者：【委員】布野委員長、高野副委員長、大崎委員、河野委員、小西委員、杉田委員、高谷委員、竹村委員、谷口委員、千代委員、中委員、西田委員、西村委員、濱崎委員、日下山委員、藤井委員、舟橋委員、布野委員、本城委員、三品委員、三宅委員、村上委員、山岡委員、葭本委員

【事務局】：宮本市長、島戸政策調整部長、大寄政策調整次長、木村課長、坪内課長補佐、吉原主査

【その他】：関係職員、コンサルタント

次 第

- (1) あいさつ
- (2) 委嘱状交付
- (3) 委員長および副委員長の選出
- (4) 守山まるごと活性化プランの検討方針について（協議事項）
- (5) その他

1. 開会

- (1) 市長あいさつ
- (2) 委嘱状交付
- (3) 委員紹介

2. 委員長および副委員長の選出

- (1) 委員長の選出
布野委員を委員長として選出
- (2) 委員長あいさつ
- (3) 副委員長の選出
高野委員を副委員長として選出

3. 議事

布野委員長	検討方針等について意見をいただきたい。 各学区で様々なアイデアが出た場合、ハコモノ整備はダメで既存施設を利用するとあるが、プラン実現のためにお金がかかる場合はどうするのか。
-------	---

宮本市長	<p>各学区から出てきたアイデアのうち事業に係る費用は事務局で試算し、財政的に勘案する中でどれくらいであれば実現可能かについて検討を行う。事業の取捨選択や調整を全体会議の中で行いたい。</p> <p>ホール建築といった大きなハード整備はここでは考えないこととするが、比較的小さな建物はあり得る。そういう趣旨で新たな施設設置（いわゆるハコモノ整備）は原則として行わないものとする」と記載させていただいた。ただし、アイデア出しの議論は自由に行っていただきたい。</p>
布野委員長	<p>今まで関わってきた事例でもワークショップで出たアイデアを冊子にまとめただけ終わってしまうというケースが多い。</p> <p>市役所の次長級職員が事務局長として各学区に張り付くということで、今回は並々ならぬ意気込みを感じる。</p>
宮本市長	<p>補足であるが、学区ごとの事務局メンバーには、当該各区の在住者を選任しており、学区別の議論をしっかりと支えられると考えている。総務部長も財政的な観点で出席している。全庁的な体制で議論を支えていきたいと考えている。</p>
布野委員長	<p>事務局長には出来ないとは言わないこととしていただきたい。</p>
宮本市長	<p>学区別の議論は自由にしていただきたい。学区別の議論を全体的な目線で整理する場が全体会議であると考えている。地域を良くするための提案がどんどん出てくるような学区別会議となるよう期待している。</p>
本城委員	<p>行政懇話会でも各学区から様々な問題点が出されているが、必ずしも解決しておらず、長年の要望だけで終わってしまっている。今回も学区で議論しても同じようになるのではないかと懸念している。今回は重点的に取り組んでいただけるのかと期待をしている。</p>
布野委員長	<p>市長としては、学区長にそのあたりを上手くまとめていただきたいという思いではないか。</p>
宮本市長	<p>法的に出来ないものは出来ないと言わざるを得ないが、工夫によってできるものは積極的に実現したい。地元住民の期待に添えるようなプランとなるようまとめて行きたい。</p>
村上委員	<p>学区別会議の委員構成は、老若男女バランスよく人選されているのか。</p>
事務局	<p>自治会からの推薦でメンバーを揃えているが、男性が多い。副自治会長やまちづくり委員などが多くなっている。</p>
布野委員長	<p>例えば、中学生に参加してもらおうとすごいアイデアが出てくる。子どもが出やすいなど開催日も考慮して検討していただきたい。</p>
村上委員	<p>まちの計画は、30年50年先を想定したものであるもので、あらゆる世代がバランスよく集まり、多方面から活発な議論ができればこそ意味があるもの</p>

	だと思うので、そうなるよう期待している。
河野委員	現段階でどの程度集まっているのか。
事務局	現在 8 割程度集まっている。
高野副委員長	<p>自治会から選出すると、女性や年少者が少なくなるので、予め工面が必要である。</p> <p>昨年、北中学校の生徒が自分の住んでいる河西自治会に面接を行い、「防災についてどのように考えているのか」「自治会は何を求めているのか」等を意見交換する場があり、非常に有意義であった。年に 1 回くらいはこのような話し合いの場があっても良いのではないかと考えている。</p> <p>我々も、できるだけ子どもたちが興味を持ちながらできるような活動を地域の中でやっていきたい。町内でも春・夏祭りには必ず模擬店を出すなど地域とのつながりをできるだけ持たせるような工夫を行っている。例えば、この会議でも中学生・高校生だけを集めて意見を聞く場を持っても良いかもしれない</p>
事務局	学区別説明会の中でも若い方や女性が参加した方がいいのではないかという意見をいただいている。ワークショップの場に様々な世代が入っていただくことはありがたいので、学区ごとに相談しながら進めていきたい。
布野委員長	体育館等で、全各区合同のワークショップを実施してもいいかもしれない。
河野委員	<p>このプランのことを市長から伺った時に、守山にとってこのプランや検討会は非常に重要な時期にあるのではないかと思い、喜びながら参加している。</p> <p>各学区で検討していただくと、今、困っていることを改善したいという意見が必ず出てくる。それとは別に、村上委員の発言にあったような、20 年、30 年、50 年先の守山の将来のことを議論するのは、学区単位では非常に難しい。しかし、この両面が議論ないと、プランの最も大切なところが失われてしまう危険性がある。</p> <p>全体会議では、各学区からの意見について、市全体でのバランスと守山の将来の発展の為に、取捨選択する判断の難しさを含んでいると思う。</p> <p>地域の個性をどう活かすのかが失われると全体の夢が低いものとなるので、守山ならではの個性をどう活かすのかを意識しながら議論していただければと強く思っている。</p>
宮本市長	地域の課題の解決など日常的な問題よりは、地域の将来に向けてどう取り組んでいったらいいかという将来を見据えた提案を積極的に行って頂きたいという趣旨である。通常施策でやるものと、今回の丸ごと活性化プランでやるものを整理しながら取り組みたい。

	<p>個性をどう活かすということは非常に重要であると思っている。学区別会議の中でも是非議論いただきたいし、そこで方向性が見いだせないのであれば、全体会議の中でアドバイスを提示いただければと思っている。守山にはすばらしい地域資源があるので、個性を活かした活性化プランをまとめていきたい。</p>
藤井委員	<p>神奈川県藤沢市から滋賀県に来て42年になる。42年経って女性の地位はずいぶん変わったと思うが、数値目標を持って意識的に女性が参加すると決めないとなかなか難しく、割合で言うとほとんど男性社会のまま動いているような気がする。</p> <p>まると活性化というと、言葉では分かったような気がするが、何が活性化というのは非常に難しい。逆手にとって、「女性が最も輝くまち守山」「女性の納税率が全国一のまち守山」であるというように、いろんなところで女性が参加するようなまちづくりの検討を学区でできればいいと思う。</p> <p>人口が増えるということは、魅力的な人が増えるということである。人的資源は歴史的な人物もいるが、今生きている人で具体的に何をしている方がどこに住んでいて、何かを始める時にはこの地域にはこういう人がいるということがわかるようなことを、学区別の資源集めの中で、出来れば女性と若者を中心にピックアップすると、男性も住みやすい町になるのではないかな。</p> <p>3ページに地域資源を線や面でつなげる取組とあるが、ドイツのわが村イキイキコンクールは、地域資源を活かしながらどうエネルギーを使うかというものである。守山には資源とシーズはたくさんあるが、そこをどう立ち上げて行くかというのが勝負になるのではないかな。</p>
布野委員長	<p>学区別会議の委員における女性の割合について、事務局で考えはあるのか。</p>
事務局	<p>全体会議については、女性の割合を守山市全体の目標値である30%に設定している。学区別会議の人選については、若い方でまちづくりに興味のある方や女性の方と説明の中ではしているが、学区にお任せしているというのが現状である。</p>
布野委員長	<p>30%を目途に区長に集めていただくというのが全体会議の意向である。</p> <p>人的資源について、どういう観点でピックアップするかというのは、事務局で考えはあるのか。</p>
事務局	<p>昨年から行っている成長戦略会議の中で提案があり、「市内で活躍している人のネットワーク」を作成し、そのデータベースをどうつないでいくかという作業を協働のまちづくり課で具体的に進めているので、その情報は提供できると考えている。</p>

布野委員長	ワークショップ等のこの検討の過程の中での人材シーズの発掘も期待されるだろう。
事務局	ふたつあり、ひとつは、当然この取り組みの中での発掘される人もいると思う。 もうひとつ、この検討の連携に協働のまちづくり課に入っており、学区毎の議論の中で、人材や組織づくりも含めて長期に渡る議論が必要となった場合は、協働のまちづくり課に職員ファシリテーターや市民ファシリテーター制度を設けている。こういった派遣により1年という期限にとらわれずに検討ができるようにという思いで、連携としている。この計画とは切り分けながら検討して頂きたい。
西村委員	今回委員を依頼された時に、自分たちはこういうまちにしたいと参加ができる会議であれば協力したいと委員を受けた。 学区からの上がってきた意見を全体会議で揉むとのことだが、委員ひとりずつにも、分科会などでどんなまちにしたいか意見をお聞きしたい。 身のある会議となるよう、次も来たくするような会議となるよう期待している。
布野委員長	全体会議の委員と学区委員は必ずしも重なっていないが、希望すれば学区別会議に参加できるのか。
宮本市長	委員もオブザーバーとして学区に入っただいて構わない。
布野委員長	濱崎委員が学区別会議と全体会議をつないでいただくことになっているが、何かご意見はあるか。
濱崎委員	学区と全体会議をどうつなぐかは、始まってみないとわからないと思っている。 歴史的資源の活用事例では、文化財課が担当するとまとまらず失敗するケースが多い。今回はみらい政策課が担当しているので、期待している。 文化財未満のものの中に大切なものがたくさんあり、地域の中で何かをする時には、この中で何を取捨選択して優先順位をつけるときに、文化財保護課がやっていると全部が大切になってしまう。文化財未満のものも含めて、学区別の議論の中で埋もれているひとやものをどう掘り起こしていくかが重要である。それを全体会議にあげて議論するというつなげ方かと考えている。
舟橋委員	守山学区に住んでいるので、地元の間人でもある。 女性、若者、地域の個性をどう吸い上げてどう活かすかが一番難しく、一番のポイントである。それをここで話し合うのが一番のポイントである。
高谷委員	守山には様々な資源があり、50年先の 市民が誇りを持てる守山となる素材

	<p>はたくさん 転がっている。私にとっては河野委員の発言された考えが重要ではないかと思う。</p> <p>学区から出てくる意見を全て拾い上げたら、いくら予算があっても足りない。いささか独断であったとしても、全体会議で十分に議論して、50年後、100年後を見据えた計画にすべきであり、将来を考えた時に一番大切なものを目指してはどうか。</p> <p>地域からの意見を募っておいて、出てきた意見を結果的に採用しないということになるかもしれないが、それはある意味仕方がないことである。この場でみんなが覚悟して、話し合いをしなければいけない。</p>
布野委員長	<p>公募委員の3名の方にも意気込み等を発言していただきたい。</p>
小西委員	<p>学区別会議には女性の方に多く出ていただきたいと思う。女性・男性の双方の立場から考えることに共通点はあるが、女性の考えの中には男性も取り組みやすいものもあると思う。逆に男性の考え方に女性が入りにくいこともあるので、女性の方をどんどん増やしていただきたい。</p> <p>学区での議論を全部吸い上げるのは難しいが、学区の中の意見のひとつでもふたつでも実現出来るようにしていただければありがたい。</p>
竹村委員	<p>市議会でも問題になっているように、守山は地域格差が大きい。地域住民の考え方にも大きな違いがある。各学区から出てくる問題を、どのように取捨選択していくのかは、市民目線では難しいと思っている。ゾーン分けなど極端なことをしてもいいのではないか。</p>
日下山委員	<p>人口減少が進む地区をどうしていくのか。誇りを持って住める、一度離れても戻って来られるという形ができないかと思っている。</p> <p>全体の活性化の中で上手く拾い上げることができればと思う。</p>
布野委員長	<p>事務局から上がってきた学区別の委員データ（自治会長から2名ずつ選出している）を見ると、180人中、女性はたった6人となっている。これでは活性化しそうにないので、少しメンバー構成を考えた方がいいのではないか。</p>
事務局	<p>委員の皆さんのご意見を聞かせていただいて、女性や若者に参加していただく手だてを考えなければ行けないと再認識した。一旦事務局で名簿を整理し、各学区長と相談させていただきたい。</p>
宮本市長	<p>学区別に女性枠を追加すると、人数が多くなってしまうのか。</p>
事務局	<p>学区ごとに30名近くの委員数となっている。</p>
宮本市長	<p>若い世代は参画出来ないにしても、女性は参画できるはずなので、学区別に5~10名の女性枠を作り、学区で推薦していただくという方法は可能ではないか。</p>

事務局	6月15日の合同会議後、7月から学区別の会議で検討を始めるので、その間に女性枠を集めるということであり、学区長の了承をいただければ可能である。
宮本市長	学区長のみなさんがお集まりなので意見をいただければと思う。各自治会から推薦いただいている2名は変更できないので、特別枠を設けて若い方や女性を推薦いただくことは可能ではないか。
千代委員	委員の人選を依頼された際に、どういうメンバー構成にしたいという説明はなかった。人選については自治会長に丸投げであり、となると、副会長などに頼むことになる。推薦できない自治会については、市で不特定多数から選出するというようになっていたが、その結果についても聞いていない。この会議が始まる前に事務局が持っているデータを先に提供すべきではないか。
布野委員長	この全体会議の場で議論して方向性を検討して、女性等を増やした方がいいということである。
事務局	各自治会に人選についてはお任せしきっていたところもある。この全体会議で女性枠を設けるということであれば、学校毎に推薦をお願いしたいと思う。 学区ごとに事情があると思うので、個々に相談させていただきながら進めていきたい。
布野委員長	様々な層が参加した方がいいということに、異論はないように思う。 すでに走り出していることでもあり、事務局から個別に対応したいという提案もあったので、学区で横並びにする必要もないのかもしれない。
宮本市長	全体会議の場で全体方針を決めるということにしているので、学区別会議の検討体制は共通認識で実施したいと考える。 人数が多すぎると議論が進まないと考えられるので、活性化の議論をするために、5～10名程度の女性や若者メンバーを学区長の裁量で入れられるようにしてはどうかとご提案申し上げます。
山岡委員	速野自治会の平均年齢は27歳と非常に若い。宮本市長が常々女性登用をうたわれていたので、当自治会では、役員の半数を女性としている。 当初は女性登用を強く希望されていなかったもので、そういう意向があるのであれば、女性への変更は可能と思う。
高野委員	各自治会とも既に人選は終わっているだろう。この段階で女性に差し替えるのは非常に難しい。恐らく自治会長も猛反発されるだろうと思う。 ひとつの案として、市長の提案のように、女性に「変える」のではなく「増やす」のであれば可能かと思う。河西学区のように16自治会で構成されて

	いるところで5~6名、中洲学区のように5自治会と少ないところであれば3名程度と、学区ごとに自治会数に応じた割り振りで女性をプラスするのが学区長会としての最低の妥協案である。そういうことにしていきたい。
布野委員長	人選は大事なことであると思う。 次回以降、活性化した議論が出来ればと思う

4. その他（事務連絡など）

杉田委員	追加で女性枠を設けていただいて、ありがたい。明日、男女協働参画の会議があるので、さっそく報告させていただきたいと思う。
村上委員	今日は半分くらいの方は発言されるチャンスがなかったので、お住まいの地域であるとか、一言発言いただければコミュニケーションが取れていいのではないか。
大崎委員	商工会議所代表であるので、全市的な立場である。
谷口委員	玉津学区の谷口です。よろしくお願いします。
中委員	びわこ豊穰の郷を代表している。豊穰の郷は水辺の環境保全を行っているが、次の世代に誇れる河川環境を残せるような活動をしていきたいと思っている。
西田委員	守山青年会議所から出向している。吉身学区在住。
三品委員	小津学区の三品です。資料を見ると小津学区にあるのは仏像や神社ばかりで、自然資源がないので、活性化にどう繋がっていくか心配している。
三宅委員	吉身学区長で、駅東側のグランドメゾン守山に住んでいる。学区内には立入小学校と吉身小学校があり、JRを挟んで5つずつの自治会で構成されている。
葭本委員	速野学区長で、洲本町に住んでいる。事業所も洲本町にあり、商工会議所の会員でもある。商工会議所の会員は地元中小企業の方々が多く、まちの活性化について商工業者の立場の中でさまざまな活動をしている。地域の方々との橋渡しができればという思い出参加させていただいた。
布野委員長	以上とさせていただきたい。 本日いただいたご意見やご指摘については、委員長に預らせていただき、市長と事務局と相談して、可能な範囲で検討方針を修正していきたい。